

淡海の100

かつて1300を超える城郭が築かれた滋賀県のお城・城跡から100城をご紹介します



彦根城 (国宝天守)

安土城 (六手道)

坂本城 (湖中の石垣)

大溝城 (天守台石垣)

長浜城 (模擬天守)

水口岡山城 (バルーン城)

大津市 A/c/A/d

京に接する当地域は、比叡山延暦寺に代表される寺院系領主権力が強く及び、比叡山中に多数見られる城郭・岩遺構は、峠道を押さえる上で重要である。これらは、浅井・朝倉と織田の湖西覇権争いの舞台ともなり、比叡山焼き討ち後は坂本城・大津城・膳所城が湖岸に築かれ、常に京・大阪を意識した城であった。

大津市	宇佐山城	うさやまじょう	志賀山城とも。志賀の陣に際し、対浅井・朝倉で信長の命により森可成が築城。石垣が良好に残る。
	大津城	おおつじょう	秀吉の命により、湖上交通の要として築城。関ヶ原の合戦では西軍の大軍を相手に籠城戦が行われた。石垣・礎石が検出。
	坂本城	さかもとじょう	元龜2(1571)年に明智光秀が織田信長の命を受けて築城した天守を持つ水城。「安土に次いで華麗な城」と記録される。石垣や礎石建物が発掘されている。
	膳所城(石鹿城)	ぜんじょう(せきろくじょう)	家康が築城した水城。「瀬田の唐橋唐金擬宝珠、水に映るは膳所の城」と華麗さをうたわれた。周辺に城門等が移築されている。
	ダング坊遺跡	だんだぼういせき	比良山中の城郭。山岳寺院の一部が城塞化したか。庭園の遺構等が残る。
	壺笠山城	つぼかさやまじょう	志賀の陣で浅井・朝倉軍が陣を取り、信長軍と戦った城郭。古墳に築城しており、大手沿いに郭群が残る。

彦根市・愛荘町・甲良町・多賀町 B/c/Cb/Cc

この地域は江南を支配する六角氏支配圏の北限として、六角氏の被官となった在地土豪の城郭が多く存在し、京極氏・浅井氏・六角氏の抗争の舞台となる。佐和山城はその抗争の争点であり、争奪戦が繰り返されて城主がたびたび交替している。近世に入るとほとんどは彦根藩領となり、井伊家の支配下におかれた。

彦根市	佐和山城	さわやまじょう	六角氏領有後、磯野氏が入城。以後江北、江南の境目の城として堀秀政、堀尾吉晴、石田三成、井伊直政が城主に。16世紀末に大規模に改造される。
	彦根城(特)	ひこねじょう	金亀城とも。慶長9(1604)年、西国への防前拠点として、幕府の命により天下普請として井伊直政が築城を始め、佐和山より居城を移す。天守は大津城天守を移築。国宝。
	肥田城	ひたじょう	16世紀初めに高野瀬藩築城。六角氏と浅井氏の攻防戦「肥田城水攻め」の舞台。後に信長により蜂須賀隆隆が入る。
	山崎城(市)	やまざきじょう	山崎山城とも。山崎片家が信長を接待した。
愛荘町	金剛輪寺城	こんごうりんじじょう	金剛輪寺境内に城郭遺構が残る。
	目加田城(町)	めかたじょう	六角氏の配下である目加田氏の居城。
	勝楽寺城	しょうらくじじょう	京極道善創建。信長の攻撃により廃城。
壽	敏満寺城	びんまんじじょう	敏満寺が浅井長政や織田信長に対して造った城。

甲賀市・湖南市 B/d/Cd

滋賀県内でも屈指の城跡の数を誇る地域である。特に甲賀衆と呼ばれる地侍たちが築いた城館は、一辺50m程度の土塁で囲まれた「単郭方形四方土塁型」と言われる小規模な構造が特徴である。これらの城館群は甲賀郡中惣との関連性が指摘されている。また、これらの小規模な城館のほかにも、豊臣政権による巨大城郭や徳川将軍の宿館としての城跡もあり、多様性に富む。

甲賀市	上野城(市)	うのじょう	単郭方形の主郭と付随する複数の曲輪を配置した丘陵上の城館。16世紀後半～17世紀前半の遺物が出土。
	小川城(城山城) (県)	おがわじょう(しろやまじょう)	礎石建物を有する土塁囲みの主郭を中心とする山城。一般的な甲賀の城館とは異なる。戦国時代末期に多羅尾氏によって改修されたとみられる。登城路の籠に籠城跡、街道を隔てた丘陵にも城跡が残る。
	黒川氏城	くろかわしじょう	甲賀市で2番目の大きさの城郭。黒川氏が築城したと伝わる。主郭に石垣、雁木があり、近世初頭に築城された可能性もある。
	佐治城(市)	さじじょう	野洲川方面を視野に入れる丘陵上に立地する甲賀では珍しい群郭形式の城跡。甲賀郡中惣との関連性を考える上で重要。
	寺前城・村雨城(国)	じぜんじょう・むらさめじょう	単郭方形を基本とする同規模の城館が近接する二城並列型の城館。土塁や堀切などが良好に残る。
	下山城	しもやまじょう	丘陵上の単郭方形四方土塁型の典型的な甲賀の城館。土塁や堀切がよく残る。伴氏の城と伝わる。
	新宮城・新宮支城(国)	しんぐうじょう・しんぐうしじょう	単郭方形を基本とする同規模の城館が近接する二城並列型の城館。新宮支城に残る土塁は高さ約10m。
	滝川城(市)	たきがわじょう	織田氏の重臣、滝川一益ゆかりの城と伝わる。丘陵上に立地する単郭方形四方土塁の城跡。
	竹中城(国)	たけなかじょう	相川の河岸段丘上に立地する典型的な単郭方形の城館。土塁と空堀が残る。
	多羅尾代官陣屋(市)	たらおだいかんじんや	江戸時代に幕府直轄地の支配を行う代官を世襲した多羅尾氏の居館兼代官所跡。石垣や庭園、背後の山には堀切や曲輪跡が残る。4/1～5/31、10/1～11/30のみ一般公開。
	土山城	つちやまじょう	土塁囲みの主郭に馬出しが取りつく。甲賀では珍しい。小牧・長久手の戦いの際に改修された可能性がある。
	水口岡山城(国)	みなくちおかやまじょう	甲賀支城の拠点および東国制覇の足掛かりを目的として、秀吉の命により天正13(1585)年に中村一氏が築いた巨大城郭。
	水口城(県)	みなくちじょう	碧水城とも。徳川将軍の上洛御殿の一つ。石垣・堀が残る。模擬館が資料館として利用されている。
	和田城(市)	わだじょう	四方に土塁がめぐる主郭をもつ丘陵上の城館。和田谷に所在する7城の最奥部に立地する中核的存在。
	三雲城(県)	みくもじょう	吉永城とも。六角氏の家臣三雲氏の山城。六角氏の亡命拠点として利用される。石垣・土塁が残る。

長浜市・米原市 B/a/Bb/Cb

鎌倉時代より京極氏は上平等を本拠に北近江に勢力をふるったが、戦国時代にはその被官であった浅井氏が主家をしのぐ戦国大名として成長した。浅井氏は小谷城に拠り北近江に覇を唱えたが、元龜元(1570)年に朝倉氏と結んで織田・徳川連合軍と戦い(姉川合戦)、その3年後に滅亡した。こうした歴史を持つため、京極・浅井家臣となる在地土豪が多く存在し、その支配地に多くの城館を築いた。このほか、京極氏対浅井氏、浅井氏対織田氏の抗争にかかわる陣城が多く認められる。余呉湖周辺は、天正11(1583)年、羽柴秀吉が柴田勝家を破った賤ヶ岳の合戦の舞台となっており、賤ヶ岳合戦時の陣城が多数残されている。また、江北十ヶ寺に代表される城塞化した真宗寺院の存在も注目される。

長浜市	大岩山砦	おおいわやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の中川清秀布陣。柴田軍佐久間盛政の急襲により落城。これが合戦の引き金となった。
	小谷城(大嶽郡上焼尾等の諸城砦を含む) (国)	おだにじょう	北近江の戦国大名浅井氏三代の居城。京極氏の根本被官であった亮政により築かれ、久政、長政により整備された。姉川合戦後の天正元(1573)年、織田信長の攻撃により落城後、羽柴秀吉が入城するも天正5年頃には長浜築城に伴い廃城。多くの遺構が良好に残存。
	行市山砦	ぎょういちやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の佐久間盛政布陣。
	玄蕃尾城(国)	げんぱおじょう	内中尾山城とも。賤ヶ岳合戦で柴田軍本陣。櫓台(本陣)あり。城の半分は福井県敦賀市にかかるとされる。
	賤ヶ岳砦	しずがたけとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の桑山修理等布陣。砦周辺に進出して来た柴田軍に對抗。
	下坂氏館(国)	しもさかしかた	京極・浅井家臣で下坂地頭の下坂氏屋敷。堀・土塁が残る。
	神明山砦	しんみょうやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴軍の蜂須賀正勝布陣。
	田上山城	たがみやまじょう	賤ヶ岳合戦で羽柴方陣城。羽柴秀長の本陣が置かれた。
	田部山城	たべやまじょう	元龜年間、朝倉氏または浅井氏の家臣田部氏が築城。小谷城攻防戦では朝倉勢が入る。
	天神山砦	てんじんやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴方陣城。最前線であったが、柴田方に近接しすぎていたため、初期で放棄された。
米原市	堂木山砦	どうぎやまとりで	賤ヶ岳合戦で羽柴方陣城。東に位置する東野山城と運動して北国街道を封鎖した。
	虎御前山城(市)	とらごぜやまじょう	信長の小谷城攻撃の前線基地。尾根上に点在した古墳を削り、堅固な岩や陣を築いた。
	中島城	なかじまじょう	浅井家臣中島宗左衛門が守備。小谷城攻防戦に際して、朝倉方が築いたか。
	長浜城(市)	ながはまじょう	南北朝期に京極氏が築き今浜氏・上坂氏らが守備。天正2(1574)年に信長の命を受け、湖北および湖上交通の押さえとして羽柴秀吉が再築して以降、柴田勝豊・山内一豊・内藤信成と城主が変遷し、元和元(1615)年、廃城。
	東野山城(市)	ひがしのやまじょう	左称山砦とも。賤ヶ岳合戦で羽柴軍の最前線砦として堀秀政布陣。
	別所山砦(市)	べっしやまとりで	前田利家親子が築城。賤ヶ岳合戦で柴田方陣城。
	三田村氏館(国)	みたむらしかた	京極・浅井に仕えた三田村氏の屋敷。姉川の合戦時には朝倉景建の本陣が置かれた。現在は伝正寺地。土塁・堀が残る。
	山本山城	やまもとやまじょう	戦国期には阿閉、浅見氏が拠る。湖上交通を押さえるための小谷城の支城。
	丁野山城	ちのやまじょう	小谷城攻防戦に際して、小谷城防衛のため、浅井氏を支援する朝倉氏が築城。
	大原氏館	おおはらしかた	大原中村城とも。佐々木大原氏の居館跡。土塁・堀が残る。
鎌刃城(国)	かまはじょう	江北・江南の境目の城だったが、のちに堀氏の居城として北近江支配の拠点となる。石垣・堅堀群・堀切等が残る。	
上平寺城(国)	じょうへいじじょう	刈安尾城とも。京極氏の居城。大永3(1523)年に国人一揆により守護居館の詰めの城としての機能が終わり、以後江濃国境の警備の城としての役割を担う。元龜元年に浅井・朝倉軍によって改修される。	
長比城	たけくらべじょう	野瀬山城とも。信長の近江侵攻に備え、元龜元(1570)年に浅井長政が朝倉氏の協力を得て築城。	
八講師城	はっこうしじょう	多賀高忠・沢田民部大輔等によって築かれたとされる。中心部の曲輪には礎石・石積み等が残る。	
太尾山城(市)	たおやまじょう	江北江南係争の城。浅井長政の頃は中島直頼が在城。北城と南城で構成され、近世軍学という別城一郭の構造。	
弥高寺遺跡(国)	やたかじせき	戦国期に京極氏が山城化。浅井・朝倉軍により上平寺城と共に改修される。土塁・堅堀群・堀切等が残る。	
横山城	よこやまじょう	京極氏の支城として築かれ、のちに浅井長政によって本格的に改修される。姉川合戦後、信長の命により、小谷城攻めの拠点として木下秀吉入城。	

近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町 B/c/Cc

中世を通じ近江を支配した佐々木六角氏の居城観音寺城の興亡と共にこの地域の城郭の歴史は展開している。将軍に頼られるほどの勢力を誇った六角氏は家臣団の内乱で弱体化し、ついに信長の侵攻と共に滅びる。信長の近江侵攻に敵対する動きが見られるのが特徴である。安土城築城を合図に近世の扉が開かれ、関ヶ原合戦以後は彦根藩井伊家の影響を大きく受ける。

近江八幡市	安土城(特)	あづちじょう	信長の天下統一にかかわる拠点。近世城郭の原点。本能寺の変の後、天主等が焼失。
	観音寺城(国)	かんのんじじょう	織田山上に広がる近江守護六角氏居城。中世山城として全国屈指の規模を誇る。信長侵攻時落城。
	北之庄城	きたのしょうじょう	六角氏関連の城か。八幡山城に先行する中世城郭で残存良好。
	水窪岡山城	すいけおかやまじょう	岡山城、水窪館とも。九里氏居城か。湖中の浮き城。京を追われた室町幕府11代将軍足利義澄を迎えた際に大規模な改造がされたか。同12代将軍足利義晴誕生地。
	長光寺城	ちやうこうじじょう	瓶割山城とも。六角氏の支城だったが、信長の攻撃により落城し、柴田勝家が城主となる。勝家の瓶割で有名。
	八幡山城	はちまんやまじょう	八幡城とも。秀吉により、羽柴秀次が城主となり近江支配の拠点として築城。鶴翼山山頂山麓に郭があり、山麓は居館跡。八幡堀と、城下町から続く在郷町の町並みが残る。
	青山城	あおやまじょう	六角氏配下青山氏の居城。
	伊庭御殿(国)	いばごてん	江戸期将軍上洛用宿泊所。南北約90m、東西約35mの単郭で、石垣が残る。
東近江市	井元城	いもとじょう	鯉江城に籠もった六角氏と戦うために織田勢が築いた付城か。
	大森城	おおもりじょう	大森布施氏居城か。
	小脇館	おわきかた	早期佐々木氏の本拠地。
	後藤氏館(県)	ごとうしかた	六角氏の重臣後藤氏の本城。後藤騒動の主人公の居館。
	佐生城	させいじょう	佐生山城・佐生日吉城とも。観音寺城と興亡を共にした六角氏の重臣後藤但馬守の居城。
	高野城	たかのじょう	六角氏被官九里氏関連か。
	鯉江城	なますえじょう	六角氏の家臣鯉江氏の居城。信長の近江侵攻に際し、観音寺城を捨て六角義治が籠城。近江守護六角氏最後の城。
	百濟寺城(国)	ひやくさいじじょう	城塞化した寺院。鯉江籠城戦で信長により焼く討ち。
日野町	布施山城	ふせやまじょう	布施城とも。玉緒山山頂。六角氏の重臣布施氏の居城。後藤騒動の舞台。
	箕作城	みつくりじょう	箕作山城・清水山城とも。信長侵攻時の戦場の舞台。この城の落城を機に六角氏は滅亡に向かう。
	和田山城	わだやまじょう	観音寺城の支城。
	音羽城	おとわじょう	蒲生館、智聞城とも。中野城以前の蒲生氏の居城。
	鎌掛城	かかげじょう	音羽城の支城とされる。城山一帯に良好な遺構が残る。
	佐久良城	さくらじょう	小倉氏の居城。大規模な堀切や土塁が残る。
	鳥居平城	とりいひらじょう	小倉氏に関わる城とされる。20以上の曲輪や堀切が残る。
	中野城	なかのじょう	日野城とも。音羽城廃城以降の蒲生氏の居城。本能寺の変の際、信長の妻子を置ったとされる。
壽	星ヶ崎城	ほしがさきじょう	佐々木氏旗頭磯氏の居城。佐々木氏の本城である観音寺城の支城として築城されたか。

草津市・守山市・栗東市・野洲市 A/c/Bc

湖南地域は、穀倉地帯であると共に、陸上・水上交通の要衝の地であり、惣村・寺内町が古くから発展している。信長に対抗した一向宗徒が立て籠もった三宅城・金ヶ森城は寺内町を城塞化したものである。平野部の環濠集落・方形居館が基本であり、六角氏の征伐の際、陣所となったものも多いが、平野部ゆえに、開発の波に飲まれたものが多い。

栗東市	青地城	あおじじょう	鎌倉時代から室町時代にかけて、この地域を治めた青地氏の居城。土塁と城池が残る。
	金ヶ森城	かねがもりじょう	浄土真宗の寺内町が対信長で城塞化。
	三宅城(蓮生寺) (市)	みやけじょう(れんしやうじ)	対信長で一向宗徒が籠城。土塁が残る。
野洲市	矢島御所	やじまごしよ	永禄8～9(1565～1566)年、室町幕府最後の将軍足利義昭の居所。
	多喜山城	たきやまじょう	日向山城とも。東海道、中山道を見下ろす要衝にある。枳形虎口・石垣が残る。
	鈎陣所(市)	まがりじんしよ	六角氏征伐時、室町幕府9代将軍足利義満の陣所と伝えられる。永正寺周辺に土塁・堀が残る。
野洲市	永原城	ながはらじょう	中世永原氏居城で、平時の居館。
	小堤城山城	こつみろやまじょう	六角氏の家臣として活躍した永原氏の居城で、湖南地域最大規模の山城。安土城に先行する古い石垣が残る。
	永原御殿(国)	ながはらごてん	徳川将軍上洛の際の宿所。本丸、二の丸、三の丸からなり、本丸には土塁と堀が残る。

高島市 A/b/Bb

高島七頭領家居城である清水山城と山麓城館群は、佐々木氏支配当時の特徴的な城郭である。浅井・朝倉と織田の攻防、さらには天台系寺院と在地領主との領地争いに伴う山岳部の砦群も特徴的である。また、朽木氏関連の居館や織田の近江支配に重要な大溝城をはじめ、平野部の城館も多数知られているが、現況を留めるものは数少ない。

高島市	伊井城	いいじょう	日置前城・酒波城とも。郭・堅堀等が残る。
	岩神館	いわがみやかた	室町幕府12・13代将軍が京の戦乱から逃れるために滞在した館。国指定名勝「旧秀隣寺庭園」は細川高国の子庭。
	打下城	うちおろしじょう	大溝古城とも。浅井から織田方に渡り、信長の陣所に。志賀の陣において、信長の高島攻略の拠点となる。土塁・堅堀等が残る。
	大溝城	おおみぞじょう	湖西支配や湖上交通の掌握のため、織田信長が甥の信澄に築かせた水城。後に部材は水口岡山城へ。天守台石垣が残る。
	朽木城(県)	くつきじょう	朽木陣屋・朽木氏館とも。金ヶ崎の戦いで朝倉・浅井から撤退の際、信長の朽木越えを助けたとされる朽木氏の本城。朽木城の敷地に陣屋が重複して建てられる。堀・土塁の一部と石垣・井戸が残る。
	清水山城(国)	しみずやまじょう	日高山城とも。高島七頭領家佐々木越中氏の居城。湖西最大の山城。礎石等が発掘される。
	田中城(上寺城)	たなかじょう(うでらじょう)	高島七頭の一人、田中氏の城郭。「信長公記」にも登場する。明智光秀が籠城。
	田屋城	たやじょう	田屋氏の城郭。北陸道、海津の港を見下ろす。枳形虎口・土塁等が残る。
	西山城	にしやまじょう	朽木陣屋の詰城。土塁・虎口が残る。
	日爪城	ひづめじょう	日爪氏居城で、後に清水山城の山城として改修されたか。

特…国指定特別史跡 国…国指定史跡 県…県指定史跡 市…市指定史跡 町…町指定史跡